

2-2.今後のモニタリング調査における 基準・指標等(案)について

37

緑の回廊における今後のモニタリング調査

- 「デザイン」、「価値」、「利活用」、「管理体制」の4つの観点から機能評価
- 基準・指標や調査項目は緑の回廊ごとに検討

38

(1)「デザイン」に関する基準・指標等(案)

「デザイン」=野生生物の生育・生息環境としての質

緑の回廊の機能向上に向けた取組:人工林による断片化の解消

緑の回廊の機能評価の観点	基準	指標	モニタリング調査項目		モニタリング調査手法	
				評価の観点	調査手法の区分	内容
デザイン	緑の回廊としての機能を発揮可能な森林が維持されている	森林の構成状況	森林タイプの分布等状況調査	緑の回廊内の森林タイプの構成がどのように変化しているか。	資料調査	最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図、伐採造林計画簿及び最新の空中写真を利用し、森林タイプごとの面積・分布を整理し、「保護林情報図」に準拠した図面を作成し、併せて伐採計画5ヵ年分の進捗状況を整理
			樹木の生育状況調査	施業による樹木等の生育状況の変化は野生生物の生育・生息し得るものとなっているか。	森林詳細調査	森林施業実証試験地において継続調査を実施
			下層植生の生育状況調査			
		森林の被害状況	山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査	災害がどこで発生しているか。被害状況はどの程度か。	資料調査	災害履歴情報(災害復旧、防災関連事業)、空中写真等を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理
			病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査	病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか。被害状況はどの程度か	資料調査	既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

39

(2)「価値」に関する基準・指標等(案)

緑の回廊の機能評価の観点	基準	指標	モニタリング調査項目		モニタリング調査手法	
				評価の観点	調査手法の区分	内容
価値	野生生物の生息等に利用されている	野生動物の生息状況	野生動物の生息状況調査	野生動物の移動等に利用されているか。	動物調査	自動撮影カメラ等を利用し、同一時期の一定期間内における野生動物の生息状況を記録 ※森林施業実証試験地で得られた動物調査の結果を活用して評価を行う。
					資料調査	既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、野生動物の生息状況を整理

40

(3)「利活用」に関する基準・指標等(案)

緑の回廊の機能評価の観点	基準	指標	モニタリング調査項目		モニタリング調査手法	
			評価の観点	調査手法の区分	内容	
利活用	森林環境教育の場として活用されている	森林環境教育の場としての利用状況	森林環境教育の場としての利用状況調査	森林環境教育の場として利用されているか。	資料調査	入林届、インターネット等を利用し、森林環境教育のイベント情報等を整理



これまでの東中国山地緑の回廊の利活用状況

(4)「管理体制」に関する基準・指標等(案)

緑の回廊の機能評価の観点	基準	指標	モニタリング調査項目		モニタリング調査手法	
			評価の観点	調査手法の区分	内容	
管理体制	適切な管理体制が整備されている	緑の回廊の普及啓発、巡視状況等	普及啓発の実績、巡視の実施状況等調査	対象緑の回廊の設定目的や課題に対応した管理体制、事業・取組となっているか。	聞き取り調査	業務資料や担当官への聞き取り調査により、緑の回廊の管理体制、事業・取組実績を確認



これまでの東中国山地緑の回廊の管理状況

東中国山地緑の回廊における 今後のモニタリング調査について

- 試験地の継続調査に加え、基準・指標等に基づく調査を実施
- 次回調査：3年後(平成33年度に実施)

43

2-3.平成31年度の緑の回廊モニタリング調査について

44

2-3.平成31年度の緑の回廊モニタリング調査について

- 白山山系及び越美山地緑の回廊の現況の把握と基準・指標等の整理に向けた、継続調査を予定。

調査項目 緑の回廊	森林調査 (林分構造調査等)	動物調査 (自動撮影カメラ等)	聞き取り 調査	直近の調査
白山山系	○	○	○	H26
越美山地	○	○	○	H25